

職能職域委員会 2024 年度活動計画

1. 全国大会委員会企画

1) 2024 年度全国大会で下記の通りパネルディスカッションを開催する

・ **テーマ（仮）**： 実践セミナーB 「新生児・乳児期に子を喪った親と保育所への支援」

・ **主旨**：産科や新生児科の医療が高度に進展した現代でも、周産期を含む早期にわが子を喪う親が少なからず存在する。そして、妊娠・出産した母親には悲哀感のみならず、その死が早期ほど自責感が強い。そして近年では、乳幼児突然死症候群と診断される場合に、その原因が分かりにくいゆえに、親のみならず、保育所や医療機関を含めた責任の所在に絡んで混乱も大きい。

臨床発達心理士は、病院臨床にかかわる会員が従来少ないために、就園以前の時期に生じる子どもや親の諸問題に接する機会が少なかったのではなかろうか。そこで、今回は、早期の親に生じる問題として標題のテーマを取り上げた。

・ **内容**：乳幼児突然死症候群（SIDS）によって子どもを喪った親の苦悩や保育所の混乱について、このセミナーの中心話題とする。SIDS 家族の会を主宰する田上克男氏には、そのご経験から基調講演をいただく。ついで、SIDS により主に保育所で子が亡くなった場合の問題に詳しい広島の中村徳子氏からご講演をいただく、最後に SIDS に限らない死因で子を喪った親に対するグリーフケアを広く実践してきた小鶴佳苗氏から、実践報告をお願いする。

※予算案：講師謝金 112,500 円（15000 円×2.5 時間×3 人）、講師旅費 240,000 円（前泊宿泊費 18000 円×3 人＋往復交通費平均 62000 円×3 人）（正確な交通費は調査していない）

その他全国大会企画の予備費 10,000 円

2. 職域開拓及び職能資質向上に関する企画とその協議

1) 2022 年度の協議からの懸案だが、継続して、臨床発達心理士資格者の求人実態（この資格の指定と資格手当）を調査する。会員にも所属先の実態報告を依頼するほか、ネット求人情報などを予定する。

2) スクールカウンセラーが学校現場でアセスメントを実施しにくい実情があるとのことで、その実態（その理由を含む）を調べて、臨床発達心理士が採用されている場合は可能となるように各教委に働きかける企画の具体化を進める（継続案件）。

※予算案：企画 1) に郵便を使う場合の予備費 60,000 円

3. 委員会の開催

1) 定例：8～9 月頃、オンライン開催を予定（全国大会を利用した対面会議も検討）

※主な議題：上記 2 及び 2025 年度全国大会企画について

2) 定例：2 月～3 月、オンライン開催を予定

※主な議題：上記 2、2025-2026 年度の委員構成についての審議、2025 年度全国大会

企画について

3) 臨時：未定（メール審議も含む）

※ 原則としてオンライン開催とするが、必要が生じて可能な場合は対面会議を行なう。

以上